

# 松 明

(平成31年3月発行・隔月発行) 2019 vol.2



P2 院内シンポジウムより



## 退任にあたって

独立行政法人国立病院機構福島病院長 氏 家 二 郎

平成31年3月31日をもちまして福島病院長を退任することになりました。平成16年11月に当院へ赴任して以来、副院長を務めた5年余、そして院長としての9年間、皆さま方には大変お世話になり、心より御礼申し上げます。

皆さまに支えられ、充実した14年間で過ごすことができました。数々の思い出が頭に浮かんできます。平成21年2月に開催した福島病院開設5周年記念講演会は華やかでしたね。九州国際看護大学・吉永宗義教授とアグネス・チャンのコラボレーションが実現し、当院の周産期母子医療センターの素晴らしさを市民の方々に知っていただく機会にもなりました。平成26年3月には待ち望んでいた重症心身障害児(者)新病棟が完成し、旧わかさ病棟の患者さん120人が引っ越ししました。より快適な環境のもとで医療を提供できる喜びを皆で分かち合いましたね。そして平成27年8月には、福島県では第1号となる「赤ちゃんに優しい病院」の認定を受けました。この認定は周産期母子医療センターのみならず、院内すべての部署で培ってきた「優しい心と思いやりの心」の集大成であったことは誰もが認めるところです。

いとわしい思い出もあります。平成23年の東日本大震災、これは大変でした。建物の一部が損壊し、あの雪

混じりの寒空の中、わかさ病棟の患者さん全員を別棟に移すことを余儀なくされました。職員の皆さんの迅速かつ適切な対応にて、けが人はなく体調を崩した患者さんも出なかったことが不幸中の幸いでした。もう一つは、周産期母子医療センターの閉棟です。福島医大とほぼ同数の超低出生体重児を収容してきた新生児部門、熱意をもって母児間の愛情を育んできた産科部門、どちらも当院の誇りにしていただだけに、大変辛いものがありました。

今の福島病院には、勢いがあります。ポストNICU・ポストPICU機能を備える重症心身障害児(者)医療と、高度な診断・治療内容を誇る神経筋疾患・神経難病医療を二本柱とした診療体制は、これからますます充実し発展していくこと間違いありません。加えて、当院の職種あるいは部門を越えた結束力と連帯感の強さは定評があります。当院の理念である『納得の医療で地域や社会に貢献』を胸に刻み、4月からの新体制のもとで力量を如何なく発揮していただきたいと願っております。

結びにあたり、これまでご協力とご支援を賜りました関係者の皆さまと福島病院の職員の方々に心より感謝申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。長い間、本当にありがとうございました。

## 本号のご案内

- 退任にあたって ..... 1
- 療育だより 「節分～それぞれの健康を願って～」 ..... 6
- 院内シンポジウム『福島病院を飛躍させよう!!』を開催 ..... 2
- この季節の感染管理について ..... 6
- 平成30年度QC活動発表会 ..... 4
- 健康プラザ 花粉症の時期のケア ..... 7
- 看護部だより リフレクション研修を終えて ..... 5
- 地域医療連携室だより 登録医のご紹介 ..... 7
- 看護学校だより 卒業を迎えて ..... 5
- 外来担当医表 ..... 8

## 納得の医療で地域や社会に貢献

### 病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献」を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

## 院内シンポジウム

# 『福島病院を飛躍させよう!!』を開催

事務部長 伊藤 幸淑

福島病院では、平成30年度から重症心身障害児（者）医療と脳神経内科に関する医療を主たる診療機能と位置付けており、平成31年度においてもこれら2つの医療を柱として病院目標及び事業計画を策定することとしています。

また、平成30年度に福島病院は機構本部から重点改善病院としての指定を受けたことから、これまで以上に経営改善の推進を図る必要が生じており、一方では患者へのよりよい医療を提供していくために、職員一人ひとりがスキルアップを図ることの重要性も高まっています。

そこで、病院が今考えていることの情報発信の場と、職員の意識高揚策の一つとして、平成31年2月20日（水）17時30分～19時（場所：大研修室）にて、院内シンポジウム『福島病院を飛躍させよう!!』を開催しました。

当日は職員70名が参加して、演者5名の説明に熱心に耳を傾けていました。とりわけ、杉浦副院長からの『平成31年度脳神経内科について』と石井統括診療部長からの『平成31年度重症心身障害児（者）医療』については、福島病院の診療機能の柱に関する話でしたので、職員の関心は非常に高く、時折頷く姿が目立ちました。

演者からの説明終了後は、意見交換の場となり、職員

からは『病棟改修に関する進捗状況』や『看護師の増員』に関する質問があり、事務担当者から各々回答しました。

最後になりますが、今後とも病院ではこのような職員の一体感を醸成できるようなイベントを企画していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

| 演 題 等                   | 演 者 等         |
|-------------------------|---------------|
| 開会の挨拶                   | 氏家院長          |
| 平成31年度脳神経内科について         | 杉浦副院長         |
| 平成31年度重症心身障害児（者）医療について  | 石井統括診療部長      |
| 平成31年度事業計画（案）について       | 伊藤事務部長        |
| 31年度リハビリテーション科計画        | 山内運動療法主任      |
| 療育指導室のビジョン2019          | 佐々木療育指導室長     |
| 今後の重症心身障害児（者）病棟運営計画について |               |
| 3病棟の強み                  | 大野副看護師長       |
| 5病棟の強みと今後の展望            | 高橋副看護師長       |
| 意見交換                    | （進行：石井統括診療部長） |
| 閉会の挨拶                   | 杉浦副院長         |



## 院内シンポジウムを終えて

副院長 脳神経内科 杉浦 嘉泰

当院の脳神経内科は、昨年4月に神経内科専門医3名体制となり、近隣病院のみならず福島県全域から神経難病の患者さんを御紹介いただきました。これを踏まえて、来年度の脳神経内科診療の展望をお示しました。

当科では神経変性疾患を中心とした神経難病の初期診断から、リハビリテーションや薬物療法を含む長期的な治療まで行っております。一方、昨今の包括医療費支払制度（DPC）の導入により、急性期医療を担っている施設での長期入院による薬物コントロールやリハビリテーションは難しくなっており、地域における神経難病診療の役割分担が重要となってきております。当院は障害者施設の特長を生かして、福島県の神経難病診療の一翼を担うよう取り組んで参ります。

また、当院にはパーキンソン病やALS、脊髄小脳変性症、シャルコー・マリー・トゥース病、筋強直性ジストロフィーなど神経変性疾患から末梢神経障害、筋疾患まで、多彩な神経疾患の患者さんが入院されており、幅

広く神経疾患の診療に携わることができます。これから日本の内科診療を背負う若手医師が、脳神経内科の研鑽を積む場になれるよう、医師の卒後教育にも積極的に取り組んでいきたいと思っております。

今回の院内シンポジウムは、各職場の取り組みを共有でき、福島病院の飛躍に向けて充実したシンポジウムでした。



## 今後の重症心身障害児者病棟運営計画について — 3病棟の強み —

3病棟 副看護師長 大野 麻衣子

当病棟は、経口摂取できる方は51名おり、一部介助で自力摂取できる方もいます。

口から食べることは、

- ①生きる楽しみのひとつ
- ②消化管の生理機能維持
- ③楽しいコミュニケーションの場になる
- ④関連する機能の向上を促す
- ⑤生命予後に影響します。

これらを満たすため、基本的な摂食嚥下のメカニズムと機能の発達について理解し、嚥下障害に伴う誤嚥や要因、関連性を多角的に評価できるよう、教育体制を構築し、人としての尊厳を忘れず、口から食べる楽しみを共に喜び、共感できる人材を育成します。

又患者さんには、言語・文字盤・身体の部分的な動き（目・舌・表情）で意志を示せる方もいます。患者さんが何を感じ、どうしたいのかを常に考えながらケアをしています。

余暇活動では、季節の行事、患者さん選曲でのカラオ

ケ、移動運動、製作、スヌーズレンなど患者さんのできる力を引き出し、“心地よい”“リラックスできる”関わりを多職種協働で行っています。

最後に残存機能の維持です。方法は様々ですが自力移動できる方がいます。一人一人の機能の把握、保持ができるように専門性を活かし関わっています。

以上のように、3病棟では患者さんの生活に寄り添ったケアが実施できます。スタッフ一人一人の関わりが患者さんのQOLを向上させる、そんなケアをしてみませんか。



## シンポジストとして

療育指導室長 佐々木 京太

「福島病院を飛躍させよう!!」というテーマを受けて、療育指導室では以下の3点の課題を挙げました。

- ①安定した病床管理に寄与する。充実した日中活動の提供を含む、当院が有する機能の外部PRにより、利用者の増加を目指すというものです。
- ②日中活動の充実。行事の充実と併せて、「年齢や発達に応じた」活動、すなわち活動の「質」を高めようという考えです。
- ③障害福祉サービスの適正な運営。特に、個別支援計画の運用に関しては課題が多いものの、平成31年度の児童指導員増員により盤石な体制を目指すものです。

これらを達成するためには、院内関係部署との連携が不可欠であり、ご理解とご協力のもと療育指導室は成り

立っていることを申し上げました。福島病院の飛躍に貢献できる療育指導室を目指してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



# 平成30年度QC活動発表会

統括診療部長 石 井 勉

QC サークル活動発表会が2月6日と7日の両日に開催されました。この活動は Quality Control (クオリティ・コントロール) の略語で、組織の『Quality = 質』を自己啓発によって『コントロール=高め』合う活動で、職場内での小グループが改善テーマを自主的に選定し1年間を通して課題解決に取り組む改善活動です。今年は11サークルがその活動成果を発表しました。

今年度は検査科の「殿、(脳波検査・神経伝達速度のバックアップ) は我にお任せあれ!!」を活動テーマに掲げ取り組み最優秀賞を受賞しました。優秀賞は療育指導室が「お部屋の汚れは心の乱れ」をテーマに、療育活動で用いる書類や遊具器材を再整理することで短時間で用意が可能になり、療育活動の時間が増えました。優良賞は1病棟が「車椅子乗車可能な患者の車椅子乗車回数(率)の増加」に取り組み、患者さんのベット離床時間が大幅に伸び大変喜ばれる活動でした。院長賞は3病棟の「おむつ交換時の『におい』の低減」の取り組みで快適な病

棟環境を作り出すことに成功しました。

当院での10年以上継続して行っているQCサークル活動は職場内での問題解決の手法として確実に院内に根付いてきており、今後もチャレンジ精神にあふれる病院を目指し活動を継続していく予定です。

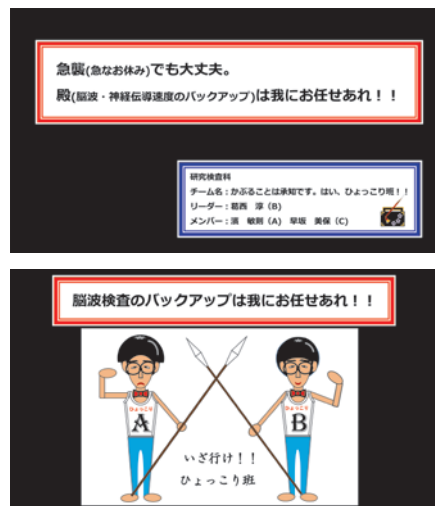


## QCサークル最優秀賞受賞

研究検査科 葛 西 淳

臨床検査には患者様から採取した血液や尿などを対象とする検体検査と、心電図や超音波など患者様に直接電極やプローブを当てて行う生理検査があります。当院では昨年の4月より脳神経内科が開設され、これまで以上に生理検査の件数増加が予測されました。検査科としては、休暇取得者がいても検査が滞らないようサポート体制を強化するため、脳波検査と神経伝達速度検査のスキルアップを目指しQC活動を行いました。目標の設定、対策の立案までは順調でしたが、「業務の空いた時間に対策を実施する」と5W1Hの「When: いつ」を曖昧にしたため、対策は実行されず時間だけが過ぎて行きました。9月の会議でQCコアメンバーから「脳波検査に絞ってはどうか」というアドバイスを受けて以降、時間はかかりましたが、ようやく「誰が休んでも検査が実施できる体制」を整えることができました。ただ、もう一つの神経伝達速度検査については目標を達成することができず、今後の課題となりました。今回、検査科の

QC活動がこのような結果だったにもかかわらず、最優秀賞を与えられたのは「これからも頑張れ」という職員皆様からのyellだと思っています。これを励みにこれからも3人で力を合わせ、「頼られる検査室」を作って参りますので今後ともよろしくお願いいたします。



## 看護部だより

# リフレクション研修を終えて

6病棟 副看護師長 大川原 薫

2月28日に、新人研修としては最終となる「リフレクション研修」が行われました。

「リフレクティブ・サイクル」という手法を基に、研修生それぞれにこの1年の自己の看護実践を振り返ってもらいました。その振り返りから、今後看護師としてどのように行動すべきかを考察し、2年目に向けての自己の課題を「私の目指す看護」として発表してもらいました。研修生それぞれが今後どのような看護実践をしていきたいのかが明確にできており、自己の看護観も深めることが出来たと思います。

しかし、新人看護師には、患者の全体像を捉えそれをどのように言語化するのかという難しさも感じられた研修だったと思います。参加した師長・副看護師長からは、どのような視点で患者を看ることが大切かという助言を得られることで、さらに研修生の学びが深められたのではないかと思います。

研修の最後には、各病棟のプリセプターから心温まるメッセージが手渡されました。そして、病棟スタッフ全

員が激励の言葉をしたためたメッセージカードのプレゼントもありました。1年間つらいことや大変なことも数多くあったと思いますが、このプレゼントで研修生それぞれの心も温まったのではないのでしょうか。研修終了後の研修生の笑顔がとても印象的でした。

自己の看護実践の振り返りから得られた気づきや学びを、看護師としての成長につなげられるよう、今後も教育委員として支援していきたいと思います。



## 看護学校だより

# 卒業を迎えて

附属看護学校 13回生 牧口 亮子

3月8日(金)、私たち33名はお世話になった先生や家族に見守られ卒業式を迎えました。看護学校では、看護の知識・技術だけでなく、看護師に必要な倫理観や人間性を学ばせて頂きました。

まず、看護の知識・技術については、経験豊かな看護学校の先生方をはじめ、診療や看護業務など忙しい合間を縫って講義をしに来て下さった講師の皆様にご感謝致します。学校で学んだ知識・技術を実際の患者様に提供することは容易でなく、時に壁にぶつかることもありました。しかしながら、実習先で私たちを待っていてくれる患者様の存在は、「看護師になりたい」という気持ちを支えてくれました。

つぎに、看護師に必要な倫理観や人間性については、看護学校の諸先生方からの日々のご指導をはじめ、実習先の看護師さんやその他病院職員の方々、受け持たせて頂いた患者様、そして実習を共にしてきた仲間たちとの関わりの中で、様々なことを感じ学ばせて頂きました。

中でも特に、チームワークや共に頑張る仲間を思いやることの大切さを知ることができました。

最後に、私たち33名は遂に目標であった看護師としてのスタートをきります。看護師になるにあたり、支えて下さった患者様をはじめとする諸先輩方、先生や家族への感謝の気持ちを胸に、それぞれが思い描く看護師像に近付けるよう、毎日を大切にしていきたいと思います。



みなさんは今年の節分は豆まきを行ったでしょうか？節分で鬼を払う豆には、生命力と魔よけの力が備わっているとされており、鬼にぶつけることで邪気を追い払い、無病息災を願う、という意味合いがあるそうです。

療育指導室では、毎年各病棟で豆まきを行っています。今年は2月3日が日曜日だったため、重症心身障がい病棟では前後の日程で節分の療育活動を行いました。

事前の活動として、節分の時期が近づいていることを感じていただくため、豆まきで使用するボールやお面を、新聞紙やお花紙の感触を感じてもらいながら作成していただきました。

節分の活動当日は、スタッフ扮する鬼が、午前・午後に分けて、プレイルームや各部屋を回ります。「今年は自分の中のどんな鬼を払いましょうか？」と、職員が声がけする姿も見られました。鬼が現れると、怖がる方、大笑いする方、驚きながらも、目が離せないでいる方など、

みなさん様々な表情をされていました。患者さん一人一人が向かってくる鬼に対し、できる力を使って手作りのボールをぶつけ、退治しました。最後は、仲良くなった鬼との記念撮影もバッチリ!!しっかりと邪気を払ったので、今年も一年、重症心身障がい病棟の方々と共に、療育指導室も健康に楽しく、活動や行事を行っていききたいと思います。



## この季節の感染管理について

感染管理認定看護師（副看護師長）高 橋 雄 司

暖かい日が多くなり、朝の布団のぬくもりから離れやすくなってきました。早いもので平成31年度も終わりを迎えようとしています。3月は卒業式や4月からの新しい生活に向けての準備など、人の動きが活発になる時期です。人が動くということは、感染症も一緒に動くということになります。感染症に罹り新年度のスタートを踏くことがないよう、しっかりと感染対策を行いたいものです。

今回は厚生労働省からの注意喚起のお知らせです。風しんの届け出件数が多くなっているようです。患者の多くは30～50代の男性で、都市圏を中心に報告されているようです。風しんで特に注意したいのが、妊娠中の女性（特に妊娠20週頃まで）が風しんに感染することで、先天性風しん症候群（CRS）の子どもが生まれてくる可能性があるということです。自分自身を守るためにも、先天性風しん症候群（CRS）の子どもが生まれてくることを防ぐためにも、風しん対策は大切です。

風しん対策にはワクチン接種が有効です。厚生労働省は、これまで風しんの定期接種をうける機会がなかった1962年（昭和37年）4月2日から1979年（昭和54年）4月1日までの間に生まれた男性に対して、抗体検査やワクチン接種を行うこととしました。対象となる男性

は、2022年3月末までの間、市区町村により送付されるクーポン券を使用すれば、原則無料で抗体検査とワクチン接種を受けられるようになります。2019年度は、1972年（昭和47）年4月2日～1979年（昭和54）年4月1日生まれの男性に市区町村からクーポン券が送付されます。2019年度にクーポン券が送付されない対象者も、市区町村に希望すればクーポン券を発行し、抗体検査を受けられるので、お住まいの市区町村にお問い合わせください。



花粉症の時期を少しでも楽に乗り切るために自分でできる目と鼻のケアをしましょう。

#### ■→目を洗う

水道水などで目を洗うと、目の細胞を傷つけ、涙も洗い流してしまいますので、市販の人工涙液などを使ってください。

#### ■→目を休めて、いたわる。

十分な睡眠をとること、タバコなどで部屋の空気が汚れたり、乾燥しないようすること、バランスのよい食事をとること。パソコン作業は控えめに。

#### ■→目がかゆくて我慢できない

冷たい水でしぼったタオルを目に乗せて冷やすことで症状が軽くなることがあります。

#### ■→コンタクトレンズよりメガネの方が良い

メガネを使用することで、目を花粉から守り、涙による洗浄作用も期待できます。

#### ■→鼻を洗う

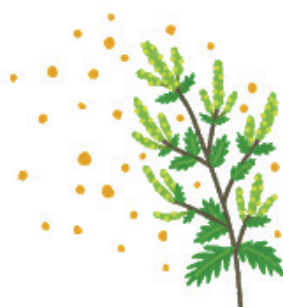
水道水は塩素を含むため、鼻の粘膜を傷つけてしまいます。細胞液や体液に近い生理食塩水（約0.9%の食塩水）を使ってください。ただし、洗浄のし過ぎにはご注意ください。

#### ■→鼻をかみ過ぎて荒れてしまった

油分100%のワセリンなどで保護してあげましょう。乳液ですと傷にしみこんでしまう可能性があります。また、鼻が荒れないように、鼻をかむときは保湿ティッシュを使用するのも良いかもしれません。

#### ■→その他

鼻の中の粘膜の炎症を抑えるためには加湿などにより水分を補ってあげることが大切です。



## 地域医療連携室だより

## 登録医のご紹介

## 医療法人 関根医院

- 院長：関根健司先生
- 診療科目：内科 消化器科
- 専門資格：消化器病専門医

治療／対応可能な疾患として慢性閉塞性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群、胃潰瘍・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、逆流性食道炎、そのほか、血液・免疫の検査治療、泌尿器・腎臓系の検査治療など全身をサポートする体制で診療にあたっております。

さらに訪問診療を行い在宅医療において、経管栄養、酸素療法、点滴管理、在宅ターミナルケア等の対応など、在宅療養の支えとして地域医療に携わっていただいております。



- 住所：福島県須賀川市影沼町226-3  
(福島交通堀底西バス停がほぼ医院前)

 **0248-73-1035**

#### 診察時間

| 外来受付時間      | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日   | 祝   |
|-------------|---|---|---|---|---|---|-----|-----|
| 8:30～12:00  | ● | ● | ● | ● | ● |   |     |     |
| 8:30～12:00  |   |   |   |   |   | ● | 休診日 | 休診日 |
| 14:00～17:30 | ● | ● |   | ● | ● |   |     |     |

- 外来受付時間・内容等について、事前に必ず医療機関に直接ご確認ください
- 休診日：日、祝
- 備考：水曜日午前中のみ 土曜日午後12時まで  
臨時休診あり

## ●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【平成31年3月1日より】

| 区 分                    | 月                      | 火                  | 水                  | 木                                  | 金                  |
|------------------------|------------------------|--------------------|--------------------|------------------------------------|--------------------|
| 内 科 1                  | 安 田 千 尋                | 安 田 千 尋            |                    | 大 戸 齊 ※                            | 安 田 千 尋            |
| 内 科 2                  | 佐 藤 由 紀 夫<br>(第1・3)    |                    |                    |                                    |                    |
| 検 査                    |                        |                    |                    | 安 田 千 尋                            |                    |
| 脳 神 経 内 科              | 伊 藤 英 一<br>(予約制)       | 根 本 和 夫<br>(予約制)   | 伊 藤 英 一<br>(予約制)   | 根 本 和 夫<br>(予約制)                   | 杉 浦 嘉 泰<br>(予約制)   |
| 小 児 科                  | 石 井 勉 (2・4)<br>福 島 医 大 | 氏 家 二 郎<br>勉       | 廣 瀬 千 穂            | 氏 家 二 郎                            | 河 原 田 勉            |
| 専 門 外 来<br>(発達小児クリニック) |                        | 氏 家 二 郎<br>勉       |                    |                                    | 河 原 田 勉            |
| 専 門 外 来<br>(小児神経外来) ※  | 平 山 恒 憲<br>(第2)        |                    |                    | 石 井 希 代 子 (1・3・5)<br>加 藤 朝 子 (2・4) |                    |
| 専 門 外 来<br>(小児循環器外来)   |                        |                    | 桃 井 伸 緒<br>(第2・4)  |                                    |                    |
| 小 児 専 門 外 来            |                        |                    | 予 防 接 種<br>(午後)    |                                    |                    |
| 整 形 外 科                | 古 川 浩 三 郎<br>(予約制)     | 古 川 浩 三 郎<br>(予約制) | 古 川 浩 三 郎<br>(予約制) | 古 川 浩 三 郎<br>(予約制)                 | 古 川 浩 三 郎<br>(予約制) |
| 小 児 外 科                |                        |                    |                    | 清 水 裕 史                            |                    |
| 脳 神 経 外 科              |                        | 福 島 医 大<br>(第2・4)  |                    |                                    |                    |

※小児神経外来は再来のみとなります。

※大戸斉先生の診療日についてはお問い合わせください。

●外来受付時間は8:30～11:00までです。急患については随時受付いたします。

●外来担当医表は平成31年3月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認下さい。

### ●専用ダイヤルができました●

診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 8:30～17:15)

診 療 の 予 約 ・ 変 更 等 (月～金 13:00～17:00)

**専用ダイヤル 0248-75-2259**

### ●編集後記●

今年度もあとわずかとなりました。3月は卒業、異動さまざまな区切りの月でもありますね。病院の防火用水池を賑わせていたカモたちも旅立ってしまい一抹の寂しさを感じる今日この頃です。新年度へ向けてまたキリッと楽しく勤務していきたいなと思っています。

(編集委員 N・S)



Fukushima National Hospital  
独立行政法人国立病院機構

**福島病院**

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地  
☎0248-75-2131 (代表)

<https://fukushima.hosp.go.jp/>